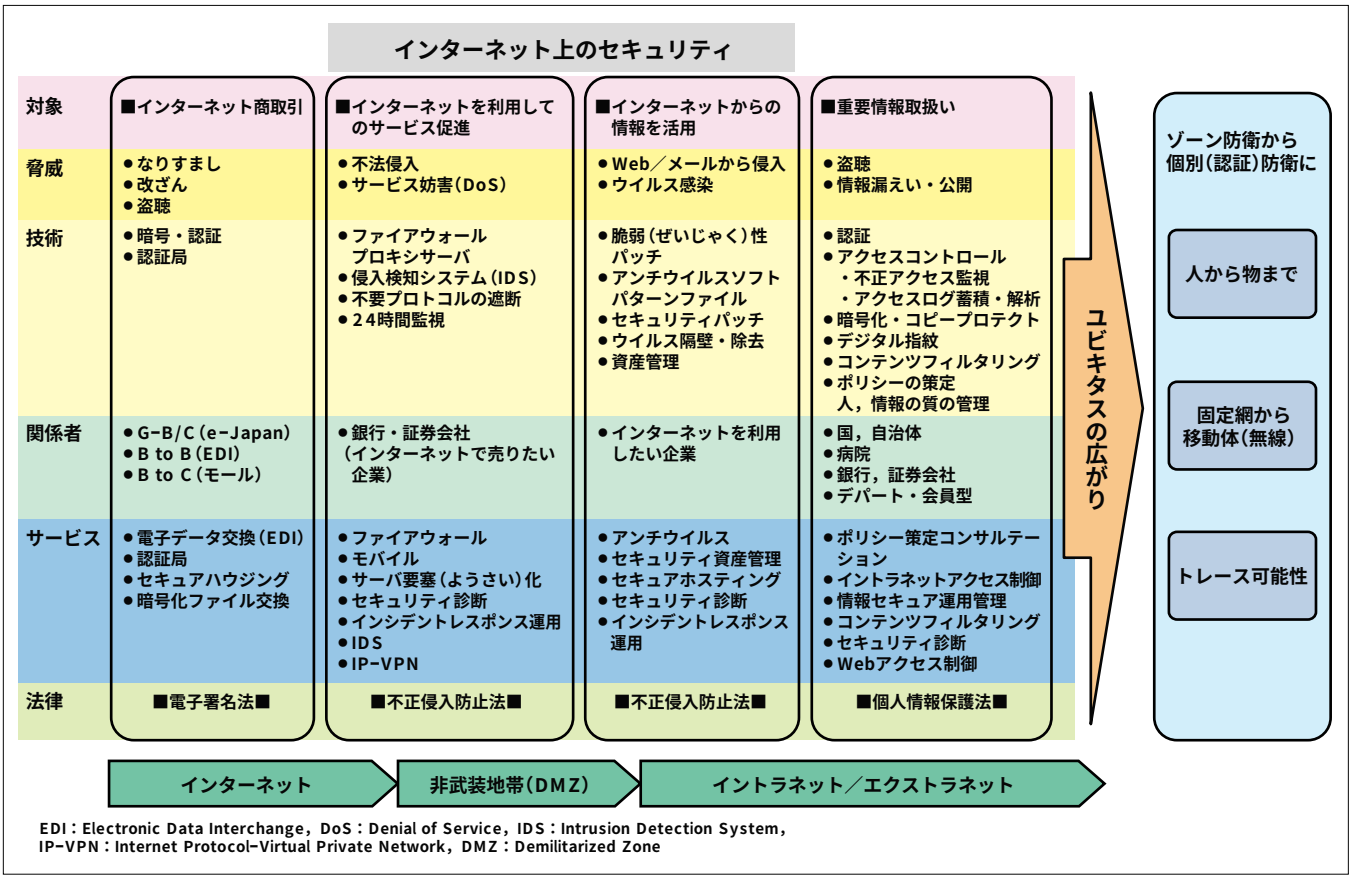
# ユビキタスセキュアソリューション実現のための認証サービス

村木克己*
角野章之*
中村克巳*

**要　旨**

ユビキタスの時代が予感されている。この時代には，あらゆるものが電子的につながれ，相互のコミュニケーションがいつでもできる。自由が増せば悪用のチャンスも増え，恩恵が多いほど，この悪用による被害が増えていく。ユビキタスのセキュリティ対策は，今までの対策の積み重ねの上にユビキタスの時代の特徴を持った脅威に対する対策を付加することとなる。今まで，セキュリティキーワードは，①インターネット上の情報交換に対する盗聴，なりすまし，②サービス提供者への不正侵入，③インターネット利用者パソコンへのウイルス感染，④内部情報の漏えいであった。ユビキタス時代には今までの“インターネット”と“人”に加えて，“無線による常時接続通信”と“物”とが追加される形でソリューションの応用を広げていく。“いつでも，どこでも，何にでも”のユビキタスインフラの上で“今だけ，ここだけ，あなただけ”が価値を持つ。ユビキタスの時代のソリューションは，利便性を持つものが期待される半面，個々の価格は安価なものも多い。したがって，認証といった基本機能も，提供するソリューションに合ったものをアウトソーシングも含め安全かつ安価に入手することが成功の鍵(かぎ)となる。三菱電機の優れた暗号技術を使用し，電子署名法に基づく公的な認定を受けた“認証局サービス”，またその応用としての“アウトソーシングサービス”などをジャパンネット㈱(Japan Net)は提供している。




## インターネット上のセキュリティ

インターネット上のセキュリティは，その応用対象により，場所を守るやり方(不法侵入やウイルス等の対策)と，対象を認識し情報を守るやり方(認証局，暗号アクセスコントロール等)がある。ユビキタス時代のセキュリティはインターネットの対応の延長にあるが，より細かく環境移動する人や物の位置変化までとらえられるため，場所依存の防御よりも人や物に対応した認証が中心になる。これによりユビキタスの中で独自のグループを作ることができる。

*ジャパンネット㈱